

# 事件に関するもの

## 阿梅塚(花畑阿梅幽霊)

《長 沼》

戸上山(城山)の東北、したみ川原の南の岡に、花畑という所がある。昔、長沼城全盛の時、長沼信濃守時貞の妾に阿梅という貞女がいて、殿は一方ならず寵愛した。

本妻は桜姫と云つて、これはまた極悪邪見であるが、本妻なので、阿梅の方よりは礼儀正しく、常に尊敬されてい

この両人は共に古今に稀な美人で、殿は常に左右を離さず待らせていた。

ある酒宴の折、臣下の者共も、席に臨み、遊興をした。その中に一人の美男が出て、酒の上の事ながら、阿梅の方の手を取つて踊つた。

その事を話の種にして、本妻桜姫は、ある時、殿の時貞に「過ぎし酒宴の折、戯れた男と阿梅は時折密通している。」と申上げたので、正直一途の殿は疑いの心を起こし、阿梅の様子を探つたが、その様子は見当らなかつたので、以前に変わらず寵愛した。

妻の桜姫は嫉妬の心つのるばかり。どうして阿梅を遠ざけようかと考え隠謀をめぐらした。ある者に密通の艶書をしたためさせ、書院に落として置いたのである。殿はこれを見ても意に介せず打ち捨てて